

城跡(A)

地図番号	No.	遺跡名	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	備考	遺跡番号
A5	1	感状山城 (瓜生城)	城址	山頂	山林	感状山	公有地	本丸 広さ東西33.00m 南北16.00m 石垣 二の丸跡15.00m×16.50m 石塁 高さ2.00m 長さ40.00m	銅銭、白磁、青磁、備前焼大甕、すり鉢、茶臼、土師皿、絨毛、切羽等多数。	I 曲輪の東側が一部崩れている。北II 曲輪に礎石及び階段と瓦列を確認。北曲輪群の1～3段の曲輪西斜面の一部に石垣を確認。北曲輪群西端の南側に幅約1～1.5mの通用門らしきものを2カ所確認。III 曲輪群東端の南側に幅約0.5～1.6mの通用門らしきものを2カ所確認。III 曲輪群東端の北側に幅約1.3mの通用門らしきものを確認。出曲輪北側の搦手門を確認。搦手門の東側に階段状の石段を確認。	「播磨鑑」「日本城郭体系」城主、瓜生左衛門尉。昭和60年～63年、発掘調査(相生市教育委員会)『感状山城跡発掘調査報告書』国指定史跡	国指定史跡29
A5	2	矢野城 (藤堂山城)	城址	山麓	山林	矢野町森	私有地	石塁(東、北、西) 高さ約2.00m 長さ 東-62.00m 北-77.00m 西-64.00m 石塁幅約1.02m、周濠が北から南に掘り込まれている。		石垣を確認。一見すると猪垣の様に見えるが、山裾部の石垣に大石を使っており、城郭の石を使っている可能性あり。現状では判別しがたい。	「播磨鑑」「日本城郭体系」城主、赤松彦五郎則実	090105
A6	3	森城(飯野山城)	城址	山頂	山林	矢野町森	私有地	山頂は東西55.00m、南北19.05mの平地があり、その周りに約3.00mの崖、崖下に細長い平地、西方に幅4.00mの空堀が40.00mの長さに作られる。		東西約180m、南北約35mの広さ。東西両端(標高133mと143m)にそれぞれ幅約4.0～5.0m、長さ約20～25m、深さ2.0mの空堀を確認。西側の空堀の内側には東西約5.0m、南北約18m、高さ約0.8mの土塁を確認。山頂部(149.5m)に東西約52m、南北約17mの曲輪を確認。その南北にそれぞれ幅約1.5m～4.6m、長さ24mの腰曲輪を確認。山頂から東北に約125m離れた標高137.3m地点に東西約19m、南北約16mの曲輪を確認。その西側に幅約21m、長さ約30mの曲輪を確認。その南東に幅約1.0～2.0mの曲輪を複数確認。	「岡城記」「日本城郭体系」城主、赤松下野守村秀	090106
A6	新規(1)	感状山出城	城址	山頂	山林	矢野町瓜生	私有地		土師器片。	山頂(194.7m)に東西7.5m、南北11mの曲輪を確認。それに続くように南側に曲輪を3段確認。さらにその南側にも約21mの範囲に曲輪状のもの4段を確認。その先に幅約1mの溝がある。そこから幅約18mの平坦部が続き、その東西に幅約2.0mの腰曲輪を確認。山頂から北西約200m離れた標高166.8m地点に東西約31m南北約7.0mの曲輪状のものを確認。山頂から南西約200m離れた標高187.8mの地点に曲輪とは言い切れないが南斜面に段状加工された場所と通路状のものを確認。		
D4	4	下土井城 (太田林山城)	城址	尾根	山林	若狭野町下土井	私有地	本丸 東西22.00m 南北9.70mの広さ その周りに2重の段。掘割高さ10.00m以上(直線式梯郭式城)	土師器片。	本丸東側の曲輪に東西約3.5m、南北約4.6mの石組の井戸1基と、西側の標高90mの斜面部に岩盤をくり抜いた東西約2.3m、南北約3.6mの井戸、合計2基を確認。本丸から北に約100m離れた地点に南から長さ約13.0m以上、幅約3.7m、高さ約4.5mと長さ約18.0m以上、幅約1.2m、高さ約1.5～1.6mと長さ約19.0m以上、幅約1.5m、高さ約3.0mの3本の空堀を確認。これら3本の空堀は南北両斜面下方に縦堀状に延びている。本丸から南西約40m離れた南斜面に放射状に縦堀を6本確認。下土井城本丸から南に約100m下ったところに曲輪があると記されていたが確認できなかった。下土井城本丸から南に約30m下ったところに曲輪状のもの確認するが城に関連するものかはっきりしない。	「播磨鑑」「岡城記」「赤穂郡誌」「日本城郭体系」城主、岡豊後守	090107
E2	5	若狭野陣屋跡	平屋敷	山麓	雑種地 境内地 畑 宅地	若狭野町若狭野	私有地	陣屋三千石の旗本の邸宅、1600㎡の敷地内に六室の本邸と内庭、表門、庭入口門などの他倉庫、馬屋などがあつたらしい。陣屋跡と土塀。		邸宅跡に若狭野須賀神社、薬師堂が立っている。現在残る建物は、元札座。土塀、石垣現存。陣屋表門は那波野西法寺表門として現存。	「相生史話」「日本城郭体系」「若狭野誌」城主、浅野長恒	090108
D7	6	光明山城 (紫雲城)	城址	尾根上	山林	光明山	私有地	本丸 東西24.00m 南北14.00mの広さ。二の丸、三重の空堀、郭跡が7個、石垣と土盛り。	瓦、須恵器、備前焼陶片。	I 曲輪(本丸)とII 曲輪の間の堀切は中央部で土橋状を呈している。同じく西II 曲輪と西III 曲輪の間の堀切も一部土橋状を呈している。本丸と西城の間の谷部に並行する石段を3列確認でき、一番下の段は東西約6.2m、南北約11.7mの池になっている。その池の東南に南北約1.4m、東西約1.7mの円形で石組の井戸を確認。大手門から北西約10mの地点に土塁に囲まれた池を確認。南出城にて瓦を採集。	「播磨鑑」「日本城郭体系」城主、赤松則村	090109
I7	7	大島山城	城址	島頂上	境内地 宅地	那波大浜町	公園	本丸跡、郭跡、井戸2、墓地があり、東西93.00m、南北36.00mの広さで、中央部がくびれ。	五輪塔、宝篋印塔、備前焼甕片。	本丸(大島山公園)を囲むように幅約5.0～10mの帯曲輪(1～2段)を確認。東側と南側の斜面には山頂へと続く道を確認。東側の道には山頂付近に石段が存在。本丸西側には城に伴うものかどうかかわからないが井戸1基を確認。	「播磨鑑」「海老名家文集」「日本城郭体系」城主、海老名太郎左衛門尉家季	090110

地図 番号	No.	遺跡名	種類	立地	地目	所在地	所有別	遺構	遺物	現状	備考	遺跡番号
17	8	那波岡の台城 (那波浦城)	城址	台地	その他 (学校)	那波南本町	公有地 (那波中 学校テ ニスコ ート)	本丸跡、梯郭跡、堅堀な どところどころに築城時の 遺構が北側の上にみられ る。(81.00m×45.00m)本 丸をとりまいて約3.30mの 断崖がある。		那波中学校の敷地で大幅に削平されており、ほとんど残存していない。ただ、 中学校の南東側には、数段の曲輪が存在するようであるが、雑木林が繁成し ているため確認できず。平成7年度に那波中学校校舎東側のテニスコート北 側斜面と北西部の斜面を発掘。北西部に石垣が検出されたが、城跡のものは 不明、城跡関連の遺物出土は無し、トレンチにより段築を確認。	「播磨鑑」「海老名家文 集」「日本城郭体系」城 主、宇野弥三郎重氏。 平成7年発掘調査(相 生市教育委員会)『那 波浦城跡発掘調査報 告書』	090111